



# 双塔

カトリック新潟教会

2021年7月  
No. 398

## 福音書にある聖人たち

協力司祭 ロレンゾ・ホセ・ルイス

7月は、福音書に名前が出てくる聖人たちを祝います。7月3日、使徒聖トマス。7月22日、マグダラのマリア。7月29日 マリア、マルタ、ラザロ。

聖トマスは12人の使徒の一人で、「主の傷に触れるまでは、主の復活を信じない」と宣言したことで有名です。そして、復活したキリストが目の前に現れたとき、このことがきっかけとなって、今でもミサの聖変化で使われる彼の偉大な賛歌が生まれたのです。“私の主、私の神”。トマスは、福音を伝えるためにローマ帝国の外に出て、現在のインドのケララ州にあるマラバル海岸まで行ったと考えられています。キリスト教信者の間では、インドの守護聖人とされています。

マグダラのマリアもまた、イエスに非常に近い人物だった。マグダラのマリアは売春婦だというのが定説になっていますが、福音書には彼女がそのようなことに従事していたという記述はありません。ただ、イエスが彼女から7つの悪霊を追い出したとだけ書かれています。それよりも、イエス様が亡くなるまで一緒にいた勇気のある人として、また、イエス様が死からよみがえったという良い知らせを伝えた人として、使徒の中の使徒とされていることを覚えておく方が大切だと思います。彼女は初期キリスト教共同体で高く評価されていた人物です。典礼暦では、マグダラのマリアの祝い日は、2016年に教皇フランシスコによって記念日から祝日に昇格しました。

7月29日は本来、ベタニヤの聖マルタだけの記念日でした。彼女は、イエスを自分の家に迎え入れ、もてなしをした人です。彼女がイエスに話しかけた様子から、彼女はイエスと非常に親しい関係にあったと考えられます。なぜなら、彼女は自分の感じたことを率直に話すことができたからです。彼女はイエスに、もっと早く来てくれていたら、自分の弟は死ななかつただろうと言いました。また、彼女がイエスに、ただ座って何もしていないのではなく、マリアに食事の準備を手伝うようにおっしゃってくださいと言ったときもそうでした。自分の気持ちを躊躇なく相手に伝えることができるのは、親しい友人だけでしょう。

今年の2月、教皇フランシスコの承認を得て、ローマ典礼暦が更新され、マルタの兄弟が加わることになりました。これにより、今後、7月29日はマルタ、マリア、ラザロの記念日となります。教皇フランシスコは、主イエスを家に迎え入れ、主イエスに熱心に耳を傾け、主イエスが復活であり、命であることを信じることで、彼らが提供した重要な福音的証しに基づいて、この典礼記念日を追加する決定をしたと、教令で述べています。

さらに、次のように書かれています。「ベタニヤの家庭で、主イエスはマルタ、マリア、ラザロの家族的な精神と友情を経験され、そのためにヨハネ福音書は彼らを受容されたと述べている。マルタは惜しみなくイエスをもてなし、マリアはイエスの言葉に熱心に耳を傾け、ラザロは死を屈服させた方の命令ですぐに墓から出てきた。」

## ●聖霊降臨の主日 5月23日(日)

この日は9:30、11:00ともに司教司式でミサが行われた。9:30のミサでは、第2朗読がベトナム語で行われた。司教様は、説教の始めに、ベトナム出身の青年を説教台に招き、一言一言ベトナム語に翻訳してもらって語りかけた。何度も言葉を選びながら「私達は言葉は違っても、同じ信仰をもっています。私達は一つの聖霊に導かれます、そして私達と一緒に神様の愛を生きています、私達は一つの共同体です」とメッセージを伝えた。引き続きの説教で「コロナ禍が相変わらず続いて、自由に外に出られないかもしれません。…でも、自分なりの方法で、自分の周りの人々にイエスの愛を伝えていくことができますと思います。今日これからベトナム出身の方々がこうして自分たちの方法で、自分たちの言葉で神の愛を表現し、伝えてくださっています。私たちは同じ神を信じ、同じ聖霊に導かれて一つの民として神の愛を生きています。だからこそ私たちにはその思いが伝わってきます。まさに聖霊降臨の素晴らしい証しだと思います。…聖書は、聖霊は風のようなものである、と伝えていきます。まさに聖霊はどこからきてどこに行くのか私達にはわかりません。大切なのは私たちはヨットのように帆を張っているということだと思います。ヨットは帆を張っていないと、風を受けて移動することができません。まるで錨をおろすかのように身構えてしまったり、自分の考えにとらわれて舵を切ったり、帆を張らずに無関心でいたりすると、聖霊という風を受けることができません。聖霊に身を任せることが大切です。…私たちはコロナ禍そして様々な個人的、社会的な問題に脅かされますが、聖霊が私たちを導きます。祈り、イエスを知り、聖霊の風を受けて、家のドアを開けて、宣教する共同体の皆さん、ともに歩んでいきましょう。」と説教を締めくくった。

## ●聖母月の踊り 5月23日(日)

ベトナムでは聖母月(5月)とロザリオの月(10月)にゆったりとした踊りをする習慣がある。そのダンスをベトナム国籍の青年たちが新潟教会で披露して下さった。



ダンスのメンバーは1ヶ月以上前から毎週信徒会館のホールやルルド前で息がぴったりと合うまで練習をした。準備を支えたのはしっかりとした青年会の組織だった。ベトナム人青年会にはリーダー、副リーダー、経理、音楽準備係、指揮者、メディア・連絡係、配膳係、活動係などの役職がある。「新潟教会でも踊りを披露する習慣を作っていきたい」とベトナム人青年会のリーダーは話している。5月のダンスを機に役職の交代があり、6月からは新しい体制で青年会を運営していく模様である。

## ●聖体賛美式 6月6日(日)

聖体の祝日に顕示された聖体を祝福するという聖体賛美式が行われました。

コロナ禍の中で例年よりも簡略化されたものでしたが、ミサの中で聖体の秘跡や聖体の力についての様々なたとえをお話されました。ロレンゾ神父様は説教の中で「ミサに授かることができなくても聖体訪問をし、聖体の前でお祈りすることで神様の愛を感じることができ、私たちをなぐさめてくださいます。」と私たちの生活の中における御聖体がもたらす力、お恵みについて語られました。



6月6日 英語ミサでの聖体賛美式

## 2021年7月の予定

※予定は随時変更になる可能性があります。ご了承ください。

日	主日、祭日、祝日、祈願日 等	教会の行事
3日(土)	聖トマ使徒	
4日(日)	年間第14主日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小教区評議会 (9:30 ミサ後)</li> <li>・英語ミサ (12:00)</li> <li>・センター&amp;外のトイレ清掃 (英語ミサ後)</li> <li>・米沢殉教祭(米沢教会の信者のみ参加)</li> </ul>
10日(土)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・信仰養成講座「知ってるつもり?!」 (10:00 研究室)</li> </ul>
11日(日)	年間第15主日	
18日(日)	年間第16主日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聖堂、センター&amp;外のトイレ掃除(各ミサ後)</li> <li>・広報部会(9:30 ミサ後)</li> <li>・ベトナム信徒の集会(センター2F)</li> </ul>
22日(木)	マグダラの聖マリア	
25日(日)	年間第17主日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教会維持費の整理 (9:30 ミサ後 事務室)</li> <li>・国際協力部会(10:00～ 研究室)</li> </ul>

※「教会の行事」が変更される場合は、日曜日毎に発行の「お知らせ」などでお伝えします。

※ ミサ時間：主日日曜日 (7:00 9:30 11:00) 英語ミサ (第1日曜日 12:00)  
週日(7:00、金曜日のみ10:00)

### ◆2021年7月の典礼奉仕◆

9:30のミサ、11:00のミサ2部制で行います。

各回、それぞれ朗読と共同祈願を選出します。

急遽、朗読等をお願いすることがありますので、その際は快く引き受けくださるようよろしく  
お願いします。

月刊「双塔」毎月1回 最終日曜日発行 編集・発行/カトリック新潟教会 小教区評議会 広報部

カトリック新潟教会 〒951-8106 新潟市中央区東大畑通一番町 656  
<http://cathedral-niigata.jp/> TEL025-222-5024 /FAX025-222-5054

